

自事業 高齢者の歩行補助手段に関するニーズ調査

<報告者>

大学院工学研究科 谷本圭志教授

(要約と今後)

電動シニアカーのニーズ調査を行いました。大学生が各戸を訪問し、アンケートの聞き取りをしました。電動シニアカーは高齢になって、足など身体が弱ってきた時の乗り物として有効ではないかと想像していましたが、調査の結果、「高齢になってから使用したい」という意見が少なかったのは意外でした。行政の思惑とは違う結果になりましたが、実態がわかりました。この調査結果は、今後の交通政策に活かすことができると考えています。

地域貢献支援事業 大山ツーリズム

<報告者>

地域学部地域政策学科

馬場 芳准教授

(要約と今後)

大山を中心とした観光地を、学生が体験し、感じたことなどワークショップを行って、観光地の検証を行いました。その後さらにワークショップを重ね、「若者の目線から見て足りないもの」の提案がありました。

その提案をもとに、町ではツイッター・フェイスブックで観光情報の発信を始めました。

地域貢献支援事業 大山北麓の水循環性に関する基礎調査

<報告者>

大学院工学研究科 梶川勇樹助教

野口竜也助教

(要約)

大山の阿弥陀川水系を調査された結果について報告がありました。この事業の目的は、大山の地下水量を推測することです。大山の降水量と阿弥陀川に流れる水量と湧水を調査することで地下水量が推測できます。ただ、阿弥陀川水系から水田への取水・排水が複雑なため、正確な水量が測定できないということですが、地盤調査などから、地下水の滞留の可能性があるとということでした。

大山町 鳥取大学 連携事業報告会

3月22日(金)

大山町では、平成24年度から鳥取大学へ職員を派遣し、町のさまざまな課題について、大学の協力を得て解決に向けて進んでいます。このたび、その中から、いくつかの事業について報告をしていただきました。



▲報告する谷本教授



▲聞き取り調査で、町内を回る学生たち

共同研究 大山町津波対策事業について

<報告者>

大学院工学研究科 黒岩正光准教授

(要約と今後)

津波の発生と到達について報告がありました。津波シミュレーションでは、大山町で最大7mの津波が予想されています。そのため、24年度に津波に対する避難の目安となる海拔表示を沿岸集落の公民館などに表示しました。また、津波についての小地域でのワークショップを行い、避難ルートの確認等の25年度実施について検討しています。